

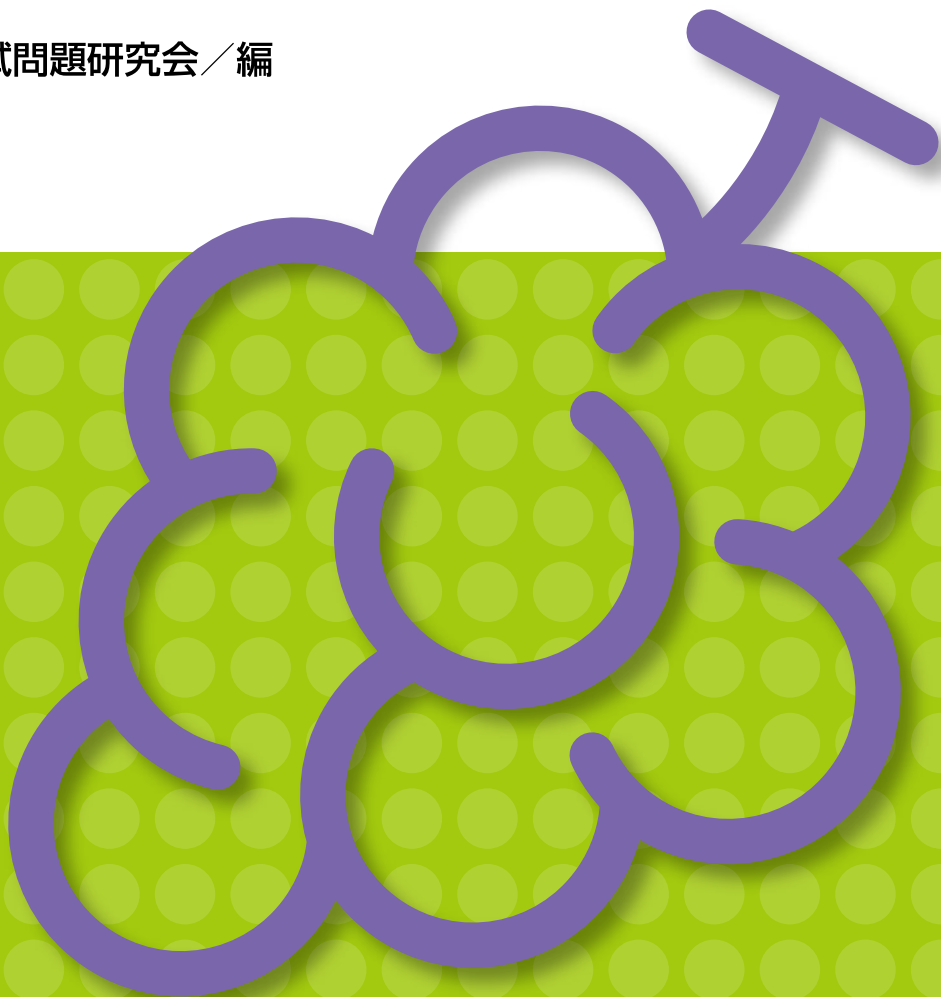
徹・底・攻・略・!

科目別

歯科衛生士 国家試験過去問題集

基礎科目編

歯科衛生士国試問題研究会／編



医歯薬出版株式会社

1 解剖学・組織発生学

〔人体の構造/歯・口腔の構造〕

【問題 1】（第 1 回/1992 年）

下顎神経で運動が支配されている筋はどれか。2 つ選べ。

- a 舌筋
- b 顎舌骨筋
- c 咬筋
- d 頬筋

【問題 2】（第 1 回/1992 年）

下顎骨を前進させる筋はどれか。

- a 咬筋
- b 側頭筋
- c 内側翼突筋
- d 外側翼突筋

【問題 3】（第 1 回/1992 年）

外顎動脈から直接分枝するのはどれか。2 つ選べ。

- a 舌下動脈
- b 後耳介動脈
- c 後頭動脈
- d 下歯槽動脈

【問題 4】（第 1 回/1992 年）

ヒトの歯について正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a 咀嚼機能に適応した異形歯性の形態である。
- b 臼歯の歯冠は基本的に六面体をなし 6 面の自由面をもつ。
- c すべての永久歯には彎曲徴がみられる。
- d 最後臼歯を除き遠心隣接面は近心隣接面と接する。

【問題 5】（第 1 回/1992 年）

正しいのはどれか。2 つ選べ。

- a 上顎第一大臼歯と上顎第一乳臼歯は一般に 3 根である。
- b 下顎第一大臼歯と下顎第一乳臼歯は 2 根性である。
- c すべての永久歯には歯根徴が明瞭にみられる。
- d 下顎大臼歯の頬側咬頭は舌側咬頭よりも高い。

【問題 6】（第 1 回/1992 年）

下顎第一大臼歯に出現しないのはどれか。

- a カラベリー結節
- b 頬面溝
- c プロトスタイリッド
- d 遠心咬頭

【問題 7】（第 1 回/1992 年）

誤っているのはどれか。

- a 象牙質はエナメル質に先立ち象牙芽細胞により形成される。
- b 象牙質は基質中の線維にヒドロキシアパタイトが沈着して石灰化する。
- c 象牙細管は石灰化度が低い管周象牙質で囲まれる。
- d 歯根象牙質の形成にはヘルトヴィッヒ上皮鞘が関与する。

4 病理学

〔病因と病態〕

【問題 1】（第 1 回/1992 年）

口腔内に現れる非上皮性の良性腫瘍はどれか。2 つ選べ。

- a 肉腫
- b 腺腫
- c 血管腫
- d 線維腫

【問題 2】（第 1 回/1992 年）

歯の咬耗や摩耗に伴って現れる変化はどれか。2 つ選べ。

- a 歯髄の出血
- b 象牙細管の硬化
- c 第三象牙質の形成
- d 象牙質の脱灰

【問題 3】（第 1 回/1992 年）

悪性腫瘍のもつ性状はどれか。

- a 膨張性に発育し転移しやすい。
- b 浸潤性に発育し転移しにくい。
- c 膨張性に発育し転移しにくい。
- d 浸潤性に発育し転移しやすい。

【問題 4】（第 1 回/1992 年）

辺縁性歯周炎の進行に際して起こる重要な変化はどれか。2 つ選べ。

- a 歯肉の増殖
- b 歯周ポケット底の深在化
- c 歯槽骨の吸収
- d 歯根膜腔の狭窄

【問題 5】（第 2 回/1993 年）

良性の上皮性腫瘍はどれか。

- a 線維腫
- b 肉腫
- c 脂肪腫
- d 多形性腺腫

【問題 6】（第 2 回/1993 年）

炎症の初期にみられる循環障害はどれか。

- a うっ血
- b 貧血
- c 出血
- d 充血

【問題 7】（第 2 回/1993 年）

辺縁性歯周炎はどれに属するか。

- a 化膿性炎
- b 変質性炎
- c 特殊性炎（特異性炎）
- d カタル性炎

【問題 8】（第 2 回/1993 年）

歯の咬耗の際に現れる主な変化はどれか。2 つ選べ。

- a 歯髄組織の増殖
- b 歯髄の充血
- c 第三象牙質の出現
- d 円形細胞浸潤

【問題 9】（第 2 回/1993 年）

肉芽組織の形成にあたって特に増殖するのはどれか。2 つ選べ。

- a 線維芽細胞
- b 上皮細胞
- c 白血球
- d 毛細血管

5 微生物学

〔感染と免疫〕

【問題 1】（第 1 回/1992 年）

ヒトの唾液中に最も多いのはどれか。

- a レンサ球菌
- b 放線菌
- c ブドウ球菌
- d 乳酸桿菌

【問題 2】（第 1 回/1992 年）

Streptococcus mutans について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 母親からの垂直感染がみられる。
- b プラークに多くみられるが唾液からは検出できない。
- c ショ糖からは酸を産生しない。
- d ショ糖から不溶性グルカンを産生する。

【問題 3】（第 1 回/1992 年）

成人の辺縁性歯周炎の局所細菌叢について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a グラム陽性桿菌の割合が高い。
- b レンサ球菌の割合が高い。
- c 運動性菌の割合が高い。
- d グラム陰性嫌気性桿菌の割合が高い。

【問題 4】（第 1 回/1992 年）

B 型肝炎ウイルス (HBV) について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 体液を介して感染する。
- b HBs 抗原は感染予防ワクチンとなる。
- c 食物による経口感染が多い。
- d 消毒用エタノールで容易に死滅する。

【問題 5】（第 1 回/1992 年）

エイズウイルス (HIV) について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ヘルパー T 細胞を破壊して免疫不全を起こす。

- b 抗菌薬の投与は有効な治療法である。

- c 飛沫唾液で感染しやすい。

- d 感染は HIV に対する抗体の有無で知ることができる。

【問題 6】（第 2 回/1993 年）

細菌の構造と機能について正しい組合せはどれか。2つ選べ。

- a 芽胞 —— 抗食作用因子

- b 線毛 —— 付着因子

- c 鞭毛 —— 運動器官

- d 莢膜 —— タンパク質合成

【問題 7】（第 2 回/1993 年）

ウイルスについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 0.015 μm から 0.3 μm の大きさである。

- b 人工培地で発育する。

- c 2 分裂によって増殖する。

- d DNA か RNA の一方のみを持つ。

【問題 8】（第 2 回/1993 年）

細菌内毒素について正しいのはどれか。

- a グラム陰性菌の外膜成分である。

- b 菌体外に排出される。

- c 熱で破壊される。

- d タンパク質毒素である。

【問題 9】（第 2 回/1993 年）

Candida albicans について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 偏性嫌気性のグラム陰性菌である。

- b 抗菌薬感受性が高い真菌である。

- c 日和見感染症病原体となる真菌である。

- d レジン床義歯に付着しやすい真菌である。

7 口腔衛生学

〔総論/口腔清掃/う蝕の予防/歯周病の予防/その他の歯科疾患の予防/
歯科疾患の疫学と歯科保健統計/地域歯科保健活動〕

【問題 1】（第 1 回/1992 年）

唾液の役割で誤っているのはどれか。

- a 緩衝作用
- b 抗菌作用
- c 消化作用
- d 粘着作用

【問題 2】（第 1 回/1992 年）

う蝕の発病要因で誤っているのはどれか。

- a 口腔細菌
- b 内分泌
- c 宿主と歯
- d 発酵性糖質

【問題 3】（第 1 回/1992 年）

う蝕に関する指標はどれか。2つ選べ。

- a CFI
- b DMF
- c def
- d PHP

【問題 4】（第 1 回/1992 年）

慢性歯周炎の症状で誤っているのはどれか。

- a 歯周ポケットの形成
- b 歯の動揺
- c 歯の変色
- d 排膿

【問題 5】（第 1 回/1992 年）

ペリクルについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 唾液中の糖タンパク質に由来する。
- b 歯面を覆っている有機質性薄膜である。
- c 歯面へのプラークの付着を防止する。
- d 通常のブラッシングで容易に除去される。

【問題 6】（第 1 回/1992 年）

DMFT 指数の計算式で正しいのはどれか。

- a $\frac{\text{被検者中の DMF 歯の合計}}{\text{被検歯の合計 (喪失歯を含む)}} \times 100$
- b $\frac{\text{被検者中の DMF 歯の合計}}{\text{被検者数}}$
- c $\frac{\text{DMF 歯の保有者数}}{\text{被検者数}} \times 100$
- d $\frac{\text{被検者中の DMF 歯面の合計}}{\text{被検者数}}$

【問題 7】（第 1 回/1992 年）

歯周疾患の指数はどれか。2つ選べ。

- a PMA 指数
- b OHI-S
- c BDR
- d CPI

【問題 8】（第 1 回/1992 年）

歯石について誤っているのはどれか。

- a 下顎前歯舌側面は歯肉縁下歯石の好発部位である。
- b 上顎大臼歯頬側面は歯肉縁上歯石の好発部位である。
- c 歯石の沈着は歯周病を増悪させる因子の1つである。
- d 成熟した歯石組成の約 80%は無機塩類である。

1 解剖学・組織発生学

〔人体の構造/歯・口腔の構造〕

【問題 1】 b, c

★★★

下顎神経（三叉神経の第3枝）が支配する筋には、咀嚼筋である咬筋・側頭筋・内側翼突筋・外側翼突筋のほか、舌骨上筋の顎二腹筋前腹と顎舌骨筋、口蓋筋の口蓋帆張筋、耳小骨筋の鼓膜張筋がある。発生学的には、下顎神経支配の筋は第一鰓弓に由来する。

- a × 舌筋は舌下神経支配である。
- b ○
- c ○
- d × 頬筋を含む表情筋は顔面神経支配である。

【問題 2】 d

★

- a × 咬筋、側頭筋前部および中部筋束、内側翼突筋は、共同して下顎骨を引き上げ、上下顎の歯を咬合させる。
- b × 側頭筋の後部筋束は下顎骨を後退させる。
- c × 咬筋、側頭筋前部および中部筋束、内側翼突筋は、共同して下顎骨を引き上げ、上下顎の歯を咬合させる。
- d ○ 外側翼突筋は下顎骨を前進させる。

【問題 3】 b, c

★★

外頸動脈の枝には、前方に出る上甲狀動脈・舌動脈・顔面動脈の3枝、後方に出る後頭動脈・後耳介動脈の2枝、内側上方に出る上行咽頭動脈の1枝、終枝である顎動脈と浅側頭動脈の2枝、合計8枝がある。

- a × 舌下動脈は舌動脈の枝である。
- b ○
- c ○
- d × 下歯槽動脈は顎動脈の枝の1つである。

【問題 4】 a, d

★★

- a ○ ヒトを含む哺乳類では歯種の区別のある異形歯性で、上下の歯が咬合して食物を咀嚼する。
- b × 臼歯の歯冠は基本的に六面体であるが、底面は歯根に続いており自由面ではない。

c × 彎曲徴と隅角徴は下顎中切歯ではみられないことが多く、上顎第一小臼歯ではほかの歯と反対になっている。

d ○ 最後方の大白歯の遠心面を除く、すべての歯の近・遠心面を隣接面という。

【問題 5】 a, b

★★★

- a ○
- b ○
- c × 歯を唇側または頬側からみたとき、切縁または咬合縁と歯根長軸延長線のつくる角度は、近心側は鈍角、遠心側は鋭角であるという特徴を歯根徴という。下顎中切歯では、歯根徴も彎曲徴・隅角徴と同様にほとんどみられない。
- d × 下顎大白歯では、歯軸に対してみると舌側咬頭は頬側咬頭よりも高い。しかし、下顎大白歯は歯冠が舌側に傾斜しているため、臨床的には頬側咬頭が舌側咬頭より高い位置にある。

【問題 6】 a

★

- a × カラベリー結節は上顎の大白歯・乳臼歯の舌側面近心部に出現する結節である。
- b ○ 下顎大白歯の近心頬側咬頭と遠心頬側咬頭間の頬側溝は、頬側面まで延長して頬（側）面溝をつくり、その先端に頬（側）面小窩（う蝕の好発部位）をみることがある。
- c ○ プロトスタイリッドは下顎の大白歯・乳臼歯の頬側面近心部に出現する筆尖状の結節である。
- d ○ 下顎第一大臼歯では、咬合面の頬側に3咬頭（近心頬側咬頭・遠心頬側咬頭・遠心咬頭）をもつ。

【問題 7】 c

★★

- a ○ 歯の硬組織形成は、象牙質基質（象牙前質）の形成→象牙質の石灰化→エナメル質の形成の順に進む。象牙質の形成（石灰化）がエナメル質形成の引き金的要因になっている。